

冬優子と男女の仲になった俺は
彼女にフェラチオを
してもらったことになった。
最初は事務所でするの嫌と
拒絶されたが必死に頼み込むと
渋々了承してくれた。

あつ
冬優子の瑞々しい唇が
俺の亀頭に……!!
くうっつ!やば……!!

んちゅっ♡んぶ♡
うっさいわね♡♡
これくらい騒がないで♡
いちいち騒がないで♡



それじゃあ
今からフェラチオ
やるわよ♡

ちゅっ♡
くっ♡
くっ♡

んちゅっ♡
んぶ♡



口の中に唾液を含むと
冬優子はおもむろに
俺の屹立した肉棒を
飲み込んでいく。

んちやぢん
んンっゆっ
っポぱる♥
♥大あん♥
ふきいたく
ういなの♥
♥わの♥
ねんっ♥
♥

うああっ!
すっすごいっ!
俺のチンポが
冬優子の口の中に!

ちんぽいっ
ちんぽいっ
ちんぽいっ

あ
あ

そんなに臭うのか？
毎日洗ってるが…

ぢゅるるるっ♥ぢゅぶ
ええそうよ♥あんたの
オスくさい匂いで頭が
クラクラするわ♥

ぢゅるるるっ♥ぢゅぶ♥ぷふ♥
あんたのは相変わらず
くっさい千ポよね♥ぢゅるっ
ちゃん毎日洗ってるわけ？♥
ふゆにこんなのじゃぶらせる
なんて…♥

んっ♥

んっ♥

んっ♥

頼み込んだ俺が
言うのもあれだが
そこまで酷いなら
止めても大丈夫だぞ

ぢゅるるるっ♥
ぢゅぶ♥
ぢゅぶ♥



冬優子はさらに激しく
口で奉仕し始める。
黒色の髪をためかせながら
夢中で俺の肉棒にしゃぶりつく。
緩急の付け方も絶妙で
快楽で一気にもなった。
行かれそうになった。

ツツツ♥♥♥鈍いわねっ♥
ホントに嫌ならこんな事♥
するわけないでしょっ♥
つたく♥あんたはどっしりと♥
構えてふゆのおまんこに♥
集中心なさいっ!♥

ぢゅぷっ♥ぢゅんぷっ♥
ぢゅぽ♥ぢゅろろろ♥
また大きくなってる♥



冬優子は端麗な顔を崩し
俺のチンポを激しく吸い付きはじめた。
水気の含んだ卑猥な音をもらしながら
激しく柔らかい唇で愛撫する。
本気でザーメンを搾りとる気だ。

んっ♡ぬぶっ♡ぬぶっ♡
ぢゅるるる♡んちゅっ♡
ふゅがっ♡までご奉仕して
あげてるんだから
ちやんと見てなさいよね♡

ああ……！
冬優子のチンポフェラ
とてもエッチだ！

そろそろ
イかせてあげるから
チンポに神経を集中しなさい♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

ぢゅる♡
ぢゅる♡



冬優子は喉奥までチンポを
啜えこみ出し入れし始めた。
溢れ出した唾液で滑りがよくなり
唇の密着感はより一段と高まる。
俺自身にも熱い欲望が
上ってきた。

だんっ♥だんっ♥だんっ♥
あんたの極太チンポでしよっ♥
もうイキそうなんぢゅこおお♥
ぢゅるうううのぢゅこおお♥
いいわ♥ふゆのおまんこで
ビュっ♥っくっさい白濁ザーメン汁
射精しなさい♥

んが♥

んが♥

んが♥

んが♥

んが♥

んが♥

ダメだっ!
もう射精るっ!

んが♥

んが♥

ぢゆるるるっ♡ちゅーっ♡
熱くてくさいのが…♡
ぢゅぷっ♡♡こくっ…!!
ぢゅこ♡♡なんて濃い
しかもこの量…♡
全部飲み込めない♡

ありがとう冬優子
とても気持ちよかつたよ
よかつたら冬優子も
気持ちよくしてあげようか？

バカ♡調子に乗らないで
まあ…でも…
ふゆのためにもつと
頑張ってあげてもいいわよ…♡

キラキラ

ボクッ

グクッ♡

ぢゅ♡

ビョッ















